

発電所幹部による現場パトロールについて

- 人身災害の連続発生への対応として、2026年9月29日より発電所幹部による現場パトロールを実施。
- 至近の人身災害の共通要因は、危険な工具を使用する作業や、作業中の移動動線に潜んだ「危険源（きけんげん）」であることから、それらに着目した現場パトロールを実施。
- 発電所幹部の俯瞰した視点で現場をパトロールすることにより、当事者では気づき難い、作業自体や作業環境に潜むリスクを把握し、その気づきを共有。
- また、当社の工事監理員も一緒に現場パトロールに参加することで、「危険源を見つける目」を養い、今後のあらゆる作業において、同様の視点でリスクを把握・共有。



現場パトロールの様子

<現場パトロールの気づき例>

作業エリアの整理整頓、段差などの注意喚起の表示、作業員同士で声を掛け合い一つひとつ確認しながら作業を実施する等、作業そのものへの安全対策はしっかり実施されていた一方で

- ① 作業そのものだけではなく、移動動線に工具の仮置き場所が無い、並行して実施している作業との距離が近くないか等の周辺環境リスクへの注意が必要
- ② 繰り返し実施している慣れた作業だからこそ、より安全な方法がないか、リスクがないかという新たな視点が必要

当事者では気づき難い点を把握し危険源を取り除く